

令和7年度 第1回 枕崎市総合教育会議 要旨録

日時 令和7年12月16日(火) 15時00分～15時55分

場所 市役所2階会議室

出席者

枕崎市長 前田祝成、教育長 木之下浩一

教育委員 市田芳一、教育委員 下窪節子、教育委員 戸床恵美子

(事務局)

教育総務課長、学校教育課長、生涯学習課主幹兼生涯学習係長、生涯学習課主幹兼公民館係長、総務課長、総務課主幹兼秘書広報係長、秘書広報係主任

※俵積田委員は所用により欠席

1 開会

2 市長あいさつ

3 協議

○令和8年度教育委員会の取組について

- ・事務局から資料に基づき令和8年度事業等の説明

(委員)

独自予算のスクールサポートスタッフの配置について、もっと外部にPRして良いと考える。

(委員)

中学校給食費の物価高騰の影響に伴う補助について、小学校が国の制度で無償化になった場合、今まで小学校の補助に充てていた予算を中学校に回すことが可能か。

(事務局)

今後、予算を組む上で見通しが立てば、協議していきたい。

(市長)

今後検討していきたい。

(委員)

市が行っている給食費補助についての周知は、保護者に伝わっているのか。

(事務局)

補助の申請書を提出してもらおう際や年度当初に文書で全員にお知らせしている。

○学校の再編・統廃合について

(市長)

これまで、令和4年度に別府中学校の、また令和6年度には桜山中学校の今後の再編・統廃合について、望ましい学校づくり審議会が開催された。審議会からの答申内容を踏まえ、令和9年度に再度、市全体による審議会を開催する計画であった。しかしながら、市長と語る会での市民からの意見や現状等を踏まえ、1年前倒しして、令和8年度に審議会を開催するよう教育委員会に要請した。

学校の再編・統廃合について、教育委員の皆さんから意見を伺いたい。

(委員)

- ・いじめがあったとき、小学校からそのままあがっていくより、いくつかの小学校が混ざることにより、小学校の頃にあったいじめが分散していくイメージがある。
- ・学習に対する競争意識の薄まりによる学習レベルの低下を中学校統合で防ぐことができる。
- ・出生数の低下があることから、早めの統合が良いと考える。
- ・社会適応力向上のため、小学校は今のまま、中学校は統合してはどうか。
- ・地域に小学校は必要と考える。中学校は統合でよいと考える。
- ・様々な意見も出てくるが、トップダウン方式で進めてもらいたい。
- ・高校に入ったときに、クラスの数が増えて、戸惑う子供もいる。そのような生徒が少しでも減るように大きな中学校は作った方がいいのではないか。

(市長)

中学校については統合が必要になってくると考える。段階を踏んで様々な問題を検討していく。一番大切にしたいのは地域の声である。審議会を大切にしていきたい。

議会の中で中学校を1つにまとめる案、マンモス校と小規模校を作り、子供たちが選択できる状況を作る案が出てきている。保護者からも大規模校になじめない生徒が出るのではないかという声も上がっているので、慎重に考えていきたい。

(教育長)

中学校を大規模校と小規模校にするシステムについて良い案かと考える。その場合、危惧することは、財政力がある。大規模校と小規模校といった2校分の校舎の改築や改修工事などに対し、国から2分の1の補助があるが、それでも難しい。いずれは1校になることを想定しながら、先に2校に統合した場合、それだけの費用をかけることができるのか。

また、統合をする際の、教員の数も考える必要がある。現在枕崎には63人の教員がいるが、1中にまとめた場合37人となり、26人減となる。

(市長)

教員減は避けられないので教員の質を上げていくことが必要。今後、全体的に検討し、選択肢を多数もてるように考えていく。

4 事務局より連絡

○今年度（令和7年度）は「枕崎市教育大綱」の改訂を行う年度となっている。「枕崎市教育大綱」は、現在策定作業中の「第7次枕崎市総合振興計画」と「第2次枕崎市教育振興基本計画後期基本計画」の内容を踏まえて改訂案を策定した後に、この教育会議で協議していただく。

(閉 会)